

◎ 本学を取り巻く環境と本学の現状認識

○少子化の波

- ・国内の18歳人口(予測)は、減少傾向が続き、・大学・短大進学率の伸び率は鈍化
2000年:151万人→2019年:118万人→2030年:104万人→2040年:88万人(19年比25%減)

○高等教育機関の環境の変化

- ・2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(平成30年11月 中央教育審議会)
→2040年の人材像:将来に向けても普遍的な能力と幅広い教養を持ち、
時代の変化にあわせて社会を支え、改善する資質を有する人材
→公立大学の役割⇔地方の人材養成政策、地域活性化等
→大学等連携推進法人(仮称)⇔大学間のリソースを活用し、国立、公立、私立の垣根を越えた連携
・学び直し支援、内部質保証システム構築、専門職大学、高大接続、高等教育無償化

○世界や日本の展望

- ・世界の展望→SDGsの対応、グローバル化・移動交流活発化(人・もの・情報)、AI、ロボット化等の社会変化
- ・日本の展望→人生100年時代到来、地方の人口・経済は縮小(地域活性化、地方創生の持続的な取り組み)
成長分野は、健康(医療、福祉、予防等)・情報通信(AI、ロボット、IT)
- ・公立高等教育機関の多面的な役割、機能の発揮→世界や日本の展望を見据えた人材の育成

○本学の現状認識

- ・学科の編成→2000年以降:英語英文学科、国際文化学科、食物栄養学科、生活デザイン学科で固定
- ・全体の志願者数状況→786人(2010年)⇔506人(2020年) 36%減
- ・大学連携協定→岐阜大学、ネットワーク大学コンソーシアム、中華人民共和国吉林華僑外国語学院ほか
- ・本学の強み→女子のリーダーシップ、メンバーシップの環境、言語や栄養士課程、ものづくり体系実務

◎ 本学の今後の方向性

○公立大学としての役割と目指すもの

- ・高等教育機会提供→本学の蓄積した教育資産の提供、社会ニーズ対応
- ・未来を見据えた地域の知的社会基盤→中京圏の人材養成の拠点
- ・SDGsや地方創生、グローバルと地域の視点→教育、研究、地域貢献
- ・女子教育の継続→開学の精神を継続、岐阜で女性の力を発揮

●新たな教育目標

- ・社会において、一人ひとりが、生きたいと思う人生を描き、実現するために、「多様な価値観を許容する力」、「自分、身近な人、地域にとって何が必要かを考え、新たな価値を見出す力」、「共感と協調に基づく人間力」を涵養する教育を行う。

○将来に向けたキーワードと方向性の整理

- ・教育プログラム→教育・学科再編(グローバル、ヘルス、センスの視点)
- ・大学連携→強みと存在価値(アウトソース、シナジー、インフルエンスの視点)
- ・地域貢献と活動拠点→地域振興策(ブレンド、コンサル、コミュニティの視点)
- ・大学ガバナンス→大学改革(キーワード:スピード、スマート、クリアの視点)

◎ 今後の具体的方向性

○今後の方針

<短期・中期的方針>

- ・教育内容→教育目標に向け、女子短大を継続、学科編成を見直し、
学内ガバナンス強化と女子教育に強いブランド化
- ・地域貢献・大学連携→学内に連携の核となる「センター機能」の設立
- ・持続的運営体制→スピード感ある意志決定や、PDCAサイクル確立
- ・総合的な学生獲得施策→高等学校への関係強化、本学HP整備
メディア、SNSを活用した広報

<長期的方針>

- ・教育内容→中央教育審議会の短期大学の議論を見ながら、
全面4大化、一部4大化(短期大学部併設)、連携4大化、
短期大学の新展開を調査検討
- ・地域貢献・大学連携→センター機能を評価し、次の段階へ検討
- ・持続的運営体制→教育内容と短大継続、4大化にかかるコストを把握

○今後の教育体制 下記のイメージで検討し、必要な取り組みを進める。

<短期・中期的イメージ>

- ・グローバルコミュニケーションをイメージする学科
→グローバルと地域コミュニケーション、地域文化と観光学
- ・人生100年時代、食による健康や医療等との連携からイメージする学科
→栄養士養成に加え、各世代の食からの健康づくり、医療等連携
- ・AI時代の人間性・ヒューマンスキルを磨くことをイメージする学科
→個々の五感から人間力、判断力を様々なモノに発揮する課程
- ・岐阜学(仮称)コースの設置
→学科横断の文化、政策、産業、建築、食文化を題材に2年間で学ぶ

<長期的イメージ>

- ・人文系4年制大学部と、短期大学部の併設(人文強化型)
- ・国際教養学部(仮称)と、ものづくり工学部(仮称)の4年制大学と
短期大学部の併設(分野拡大型)
- ・短大から連携4年制大学への編入による連携4大化(短大拡充型)

○地域連携と大学連携

- ・地域に役立つ公立大学
→社会、地域への包括的支援と知の還元、産業との連携と支援
市のシンクタンク機能、市の施策事業との協働、連携
フィールドワークによる問題解決型授業の提供
- ・地域連携体制の中心となる地域連携センター(仮称)の確立
→市の政策等との連携、学外への窓口となり、学内の調整
- ・女性教育の拠点化
→女性教育支援・社会復帰支援のリカレントプログラム
- ・大学間連携(知のつながり)における強みの発揮
→幅広い教養を身につける環境づくりと文理融合
- ・大学運営の適正化
→学生や地域、市政等への説明責任を果たすため、
組織体制の改善、目標設定やPDCAサイクルの確立